

中央環境審議会大気・騒音振動部会（第18回）

議事要旨

審議方法：書面審議

議 題：有害大気汚染物質排出抑制対策等専門委員会の設置について

参加委員：大久保規子、大塚直、大原利眞、酒井伸一、崎田裕子、勢一智子、高村ゆかり、山神真紀子、飯田訓正、石田東生、一政都志夫、
(敬称略) 上田佳代、上野佳奈子、鶴野伊津志、大河内巖、片谷教孝、加藤博和、金子成彦、紀ノ岡幸次、染谷喜幸、清谷伸吾、坂本一朗、
坂本慎一、島正之、飛戸正己、鈴木規之、高岡昌輝、武林亨、田邊潔、谷口靖彦、津江光洋、林由香里、森下達哉、矢野隆

審議結果：8月25日に各委員に開催通知を送付し、電子メール及びFAXにて34名の委員より回答を得た。9月5日に回答結果を部会長にご報告し、同日付けで有害大気汚染物質排出抑制対策等専門委員会を設置とする旨了承を得た。

議事概要：下記のとおり。

中央環境審議会大気・騒音振動部会（第18回）議事概要
 （議題：有害大気汚染物質排出抑制対策等専門委員会の設置について）

■ 回答結果

了承する : 34 名

了承しない : 0 名

■ 個別にいただいた御意見及びその対応

御意見	対応
<p>[上田佳代委員] 排出抑制対策は重要ですので、専門委員会設置に異存ございません。これまでも有害大気汚染リスク評価や基準等検討するときには、排出も合わせて検討されていたかと思えます。以前は、排出抑制対策については、どのような形で議論されていたのでしょうか。</p>	<p>平成8年の改正大気汚染防止法により有害大気汚染物質が制度化されて以降、優先取組物質の排出抑制対策については、中央環境審議会の専門委員会等において、事業者による自主的な排出抑制対策の進捗状況の確認や評価等を実施してまいりました。</p>
<p>[大河内巖委員] 排出抑制対策の検討においては、対策の効果、実施可能性等に関する知見や実態を踏まえつつ、総合的・効果的な排出抑制策につながるよう、産業界からの意見も踏まえた検討となるようお願いしたい。</p>	<p>排出抑制対策について、広く専門家や関係者の意見も聞きながら議論してまいります。</p>
<p>[染谷喜幸委員] 国民への健康影響の未然防止の観点から、環境目標値が未設定の優先取組物質に対し、新たな環境目標値を設定する必要性等、当委員会を設置し専門的見地から検討する事は意義がある。専門委員会の設置に当たっては、広く専門家・関係者の参加を求め、その意見を聞きつつ、十分な科学的見地を踏まえた合理的な検討が行われるようにして頂きたい。</p>	<p>排出抑制対策について、広く専門家や関係者の意見も聞きながら議論してまいります。</p>

<p>[田邊潔委員] 排出の把握と排出抑制対策については、排出経路が多岐にわたり、間接的に大気に排出されることも多く、大気以外の媒体への対処が必要となることも考えられる。対策コストも含め、総合的に、効果的に排出を削減することが望まれると思う。また、局所汚染に対する対策やリスク評価について、考え方を整理する必要があると思う。</p> <p>モニタリング体制については、発生源の影響を把握する手法を向上させることや、定量的なリスク評価とそのためモニタリング体制の検討などが望まれると思う。</p>	<p>引き続き排出実態を把握し、効果的な対策が進むよう議論してまいります。</p>
<p>[谷口靖彦委員] ベンゼンの例のように、優先取組物質の排出抑制対策は法規制だけでなく事業者の自主的な取組を組合わせたものになる可能性があると思います。その場合、事業者の自主的な取組に国だけでなく地方自治体の役割も明確になるよう検討をお願いします。</p>	<p>当該専門委員会には専門家や業界団体だけでなく地方公共団体にも参画いただく予定であり、いただきました御意見を踏まえ、各主体の役割が明確となるように検討を進めてまいります。</p>
<p>[山神真紀子委員] 分析にヘリウムガスを使用している有害大気汚染物質が多くありますが、昨今のヘリウムガスの供給不足により、当センターを含め多くの地方環境研究所でヘリウムガスの確保に苦慮しています。ヘリウムガスの使用量削減方法については環境省から通知がありましたが、代替ガスによる分析法の開発なども検討していただきたいと思います。</p>	<p>分析用ヘリウムガスの供給不足については、環境省としても重要な問題と認識しております。ヘリウム代替ガスによる分析法の開発などについて、本専門委員会とは別に検討してまいります。</p>